

米沢市まちづくり総合計画(案)に対する総合計画審議会委員の意見への回答について

番号	項目 (編・章)	頁	意見の内容	回答	修正 の有無	担当課
1	第3部 第3章 施策1-3 学園都市・ 生涯学習	42～ 43	成果指標について、1-3の「市内高校生・大学生・大学院生と地元企業のマッチングを目的としたセミナー・ガイダンス・イベント参加人数」がありますが、市内の高校や大学では少子化で定員割れや人が少なくなり母数が減っています。例えば、満足度とか割合とかだと努力した結果が分かりやすいですが、人数ベースだと少子高齢化の影響で分かりづらいと思います。割合で示せると良いと思いますので、検討いただきたいです。	市内の高校や大学が少子化等の影響で定員減や定員割れの状況があることは認識していますが、本成果指標については、参加者の主観に基づくデータではなく、より客観的に参加者延べ人数での推移としているところでありますので、御理解くださるようお願いします。	なし	商工課
2	第3部 第3章 施策3-3 防災・消防	68～ 69	68ページの施策3-3の期待したい行動に「町内会」という言葉を入れていただき、ありがとうございます。ただ、町内会が防災活動の中心となるので、「災害時は地域への支援に努めましょう」という表現は違う気がします。「災害時にはみんなで助け合いましょう」「災害時にはみんなで助け合う仕組みを共有しておきましょう」というような表現にさせていただいたほうが分かりやすいです。	地域への支援に限らないため、御意見を踏まえ、記載内容を修正しました。 【修正（68ページ）】 災害時にみんなで助け合う仕組みを共有しておき地域への支援に努めましょう。	あり	防災危機管理課

番号	項目 (編・章)	頁	意見の内容	回答	修正 の有無	担当課
3	第3部 第3章 施策3-3 防災・消防 ほか	68～ 69 ほか	<p>・防災力の強化について</p> <p>町内会の役割の重要性を申し上げました。命に関わる防災活動は町内会活動の大切なひとつですが、町内会活動そのものが地域により大変温度差があります。人口減少・少子高齢化が進む中で、町内会から抜きたい人、入りたくない人なども出始めていると聞きます。町内会の在り方をみんなでもう一度考えてみる必要があると思います。「町内会は何のためにあるのか？町内会は誰のためにあるのか？」「地域のみんなから必要とされ、無くてはならない町内会とは？」をみんなで考えて目指したいものです。</p> <p>できれば、町内会が何を考えて何をしているかをコンパクトにまとめた「町内会ダイジェスト」と、住宅地図を兼ねた「防災福祉マップ」を全戸に配付して、みんなで情報を共有して住みよいまちづくりに取り組んでいければと思います。新しく入町した方もこれを見ればまちづくりに参加できます。</p> <p>国を挙げて防災への取り組みが進められております。米沢市も全市をあげて官民連携を進めていければと思います。米沢市地区委員会常任委員会は今年度「災害に強い元気なコミュニティづくり」を研修テーマに長岡市山古志地区その他で防災について学ぶ予定で、防災への関心が非常に高まってきております。一例として地区委員会のもとに防災を専門に考える、防災組織連絡協議会をおくことも考えられます。東部地区のやり方です。「米沢自主防災組織連絡協議会」を組織し防災危機管理課が事務局となり、官民が連携して防災への取り組みを進めていくことを改めて提言申し上げます。下部組織を17地区の地区防災組織連絡協議会とし、防災組織の有無にかかわらず全ての町内会が加盟して、防災学習・情報交換その他を繰り返し行い、防災力の向上や防災組織の結成支援を行います。自主性を重んじて各町内会や防災組織からの「防災研修会」等の開催要請を待つのでは、機能する防災組織づくりは遅々として進みません。プッシュ型で地区ごとの全町内会を対象にした防災学習を繰り返し行い、いざという時にみんなで助け合える機能する防災組織づくりを推進します。</p> <p>いざという時に、町内会として何もできずにただ混乱するばかりの町内会があってはなりません。災害は待ってはいけません。速やかに進めなければなりません。「為せば成る」です。</p>	<p>地域の皆様に地域コミュニティの大切さを理解していただくとともに、町内会活動を支援する冊子の作成・配布について検討を進めていきます。</p> <p>また、本市全体の自主防災組織をまとめる協議会については、関係機関と連携して研究していきます。</p>	なし	コミュニティ推進課 防災危機管理課

番号	項目 (編・章)	頁	意見の内容	回答	修正 の有無	担当課
4	第3部 第3章 施策4-2 地域医療	84～ 85	かかりつけ医を持つことを推奨する前提として、開業医不足の問題を解決する必要があると考えます。特に小児科不足は深刻と聞いております。一方で、窪田診療所が、米沢市の承継補助金第1号となる明るい話題も聞いています。米沢市として、医院開業補助に注力している事を広くアピールできれば、興味を持つ医師も増えるかもしれません。例えば興譲館から医学部に入学する生徒の学費を市が負担し、米沢に戻る事を確約してもらう、山形大学医学部に、地域入学枠を設けてもらうなど、具体的な策を打ち出すのも1つの方法だと思います。人口対策としても「医師のいないまちに人は集まらない」と思います。	御意見のとおり、開業医の確保や将来の医療人材の育成に一層努めていくことが重要であると認識しています。 診療所に対する補助制度については、医師会等の関係機関と連携して周知や広報等の取組を進めており、今後も引き続き制度の周知に努めていきます。なお、本計画では85ページの「1 地域医療体制の整備」に記載しています。 また、市立病院については、将来的に同病院で勤務することを条件として、医師・薬剤師・看護師を対象とした支援制度を設けており、85ページの「2 市立病院の体制・機能の充実」に記載しています。	なし	健康課 病院総務課
5	第3部 第3章 施策4-4 障がい福祉	88～ 89	フードパントリーはこれまではひきこもりの方が多かったのですが、最近では高齢の方など社会参加ができていない世帯が増えてきています。ここは地域福祉として、「米沢市全域で困窮世帯に配る」というような文言に修正したほうが良いと思いました。	現在、本市で実施しているフードパントリーは、経済的に困窮している子育て世帯へ向けたこども食堂や市内のフードパントリー等を通じての食品配布や生理用品の無償配布になります。全市を対象とした配布は現段階では検討していないため、このままの表記とさせていただきます。	なし	こども家庭課
6	第3部 第3章 施策5-4 DX（デジタル・トランスフォーメーション）	100～ 101	「デジタルを通じた価値創出」の部分に「地域の課題解決」とありますが、具体的な課題にまで言及されていないので、「魅力推進課」や「商工課」だけの対応範囲に留める計画なのかお聞きしたいと思いました。 水位計の設置など災害対策のデジタル化なら「防災危機管理課」、観光客情報の取得なら「観光課」など、DXは広範囲に渡るかと思います。魅力推進課にデジタル改革推進担当者がいらっしゃいますので、DX化の「窓口」という位置づけでしたら納得です。	21ページの基本目標5にDXの方向性を示しており、DXをはじめとする持続可能な行政経営を行うことで、質の高い行政サービスを市民・事業者を提供するとしています。 各分野においてデジタル技術も活用しながら市民の生活をより良いものにしていくことにしており、本計画では教育DXや観光DX、建設DX、介護DX等の課題解決手法としてデジタルを活用する取組を個別に掲載しています。魅力推進課が担当課に伴走支援し、庁内のDX推進に取り組んでいきます。	なし	魅力推進課
7	全体	－	「しあわせ」と「幸せ」の表記が混在しているところが気になりました。	御意見を踏まえ、記載内容を修正しました。	あり	政策企画課